

三菱ゆかりの地を訪ねて



小岩井農場

～日本の農牧事業の発展に情熱～

(岩手県雫石町)

雄大な岩手山麓に広がる緑の大地。岩手県出身の作家、宮沢賢治の作品にも数多く登場する小岩井農場は、県内有数の観光スポットとして毎年多くの人を訪れています。

1891(明治24)年、日本鉄道会社副社長の小野義真と三菱第二代社長岩崎彌之助(三菱の創業者・岩崎彌太郎の弟)、鉄道庁長官の井上勝の3人が、東北地方への鉄道開通を機に食料増産のため農牧事業を起こそうと農場を開設。3人の名字から1文字ずつ取って「小岩井」と命名しました。その後、岩崎家の個人経



岩崎彌之助



岩崎久彌

写真提供:三菱史料館

営となり、事業を引き継いだ第三代社長の久彌(彌太郎の長男)が畜産を経営の中心に据え、酪農製品の製造技術の確立と競走馬の育成にも力を注ぎました。

東京ドーム約640個分に及ぶ日本最大級の農場には、牛舎やサイロなど歴史的建造物が点在し、ガイド付きツアーで見学することができます。日本の農牧事業発展に情熱を傾けた彌之助と久彌の思いが今も伝わるこの地で、桜や紅葉などの四季折々の美しい自然と現地でしか味わえない食事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

小岩井農場の見どころ

一号サイロ、二号サイロ



一号サイロは1907(明治40)年、二号サイロはその翌年に建設されました。どちらもレンガ造りで、青草を与えられない冬場の家畜の飼料として、発酵飼料(サイレージ)を作っていました。現存する日本最古のサイロといわれています。

一号牛舎



1934(昭和9)年建設。久彌の「30年後も恥ずかしくない牛舎を」との命により建てられた当時最新鋭のスタンション式を採用入れた搾乳牛舎。現在も68頭を収容する搾乳用牛舎として使用しています。

食事とお土産



農場内の「まきば園」では焼肉や洋食などのレストランのほか、小岩井農場でしか手に入らない、新鮮な生乳から作られるチーズや牛乳などの乳製品を味わえます。

ガイド付きバスツアー



「日本の20世紀遺産20選」に選ばれた小岩井農場には、重要文化財に指定された21の歴史的建造物があり、その多くが現在も使用されています。これらの建造物や非公開の生産現場などを、専門のガイドが案内してくれます(所要時間約45分)。

アクセス

住所: 岩手県岩手郡雫石町丸谷地36-1

電話: 019-692-4321

交通: JR小岩井駅よりタクシーで約10~15分
JR盛岡駅よりバスで約30分

入場料、開園時間などは時期によって異なりますので、
小岩井農場ホームページをご覧ください。
<https://www.koiwai.co.jp/makiba/>



写真提供:小岩井農牧(株)